

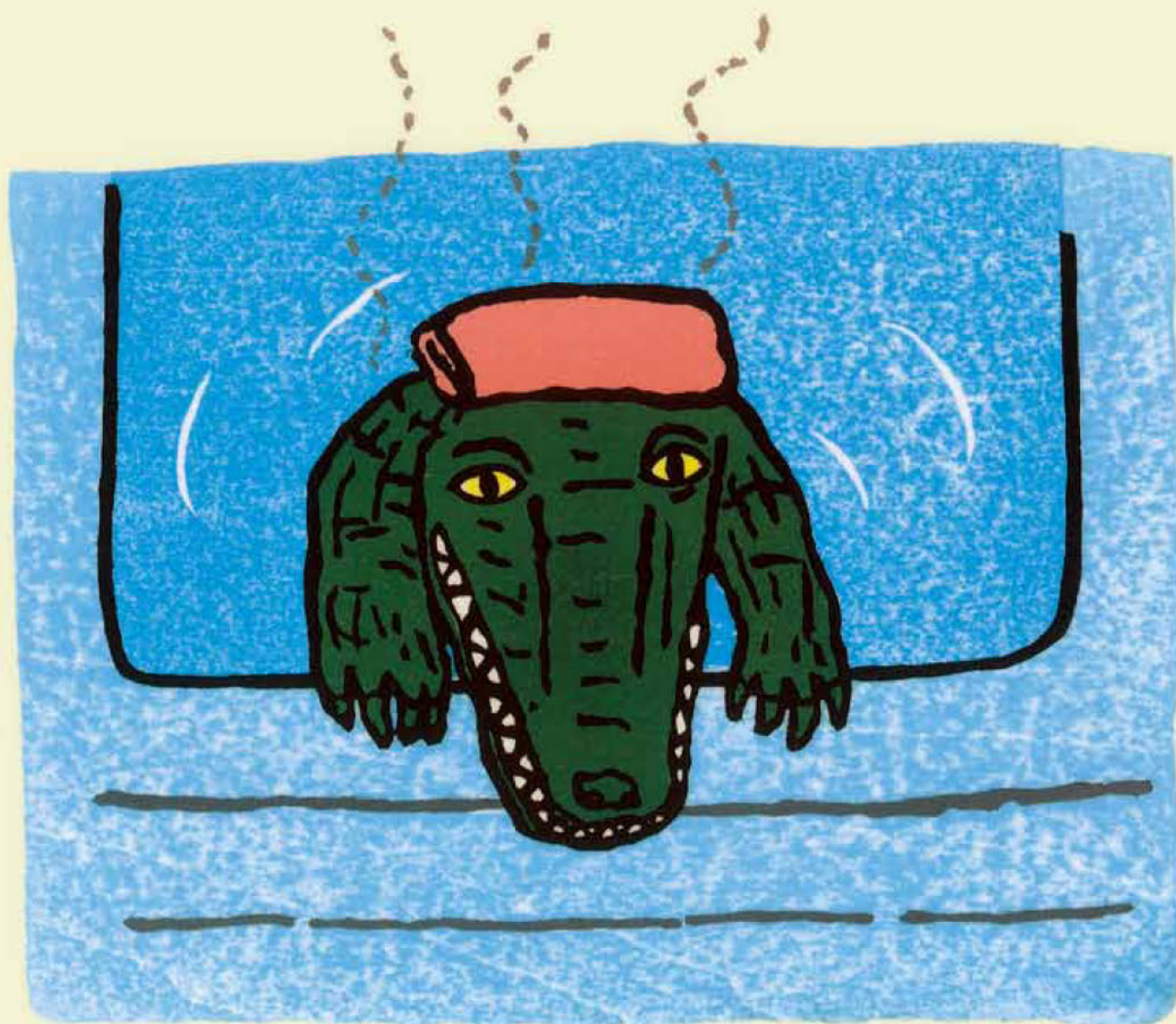
こころ育てる絵本との出会い

マウちゃん通信

2014 6 - 7 vol. 26

絵本原画展 山口マオ

特集 開館20周年(3)



やまぐち まお
山口マオ



山口マオ (やまぐち まお) プロフィール

1958年、千葉県生まれ。東京造形大学絵画科卒業。

小さい頃から絵を描くことと猫が大好きで、幼稚園の頃から自分が画家のような気分でした。大学卒業後、音楽活動を経て、1987年、ザ・チョイス年度賞入賞と共にイラストレーターとしてデビュー。マオ猫のキャラクター、版画のイラストレーションが定着。2000年に出版された『わにわにのおふろ』を機に絵本作家としての活動にシフトする。『わにわにのおふろ』で第一回アジア絵本原画ビエンナーレ佳作賞受賞。主な作品に『わにわに』シリーズ (福音館書店) 『十二支のはじまり』 (岩波書店) 『おれはサメ』 (フレーベル館) 他。今年7月に『あむとあおいりど』 (福音館書店) を出版予定。

ギャラリー&ショップ海猫堂主宰。千葉県在住。

主人公になりきったつもりで描く。
あくまでも自分本意になりすぎず、
自然に現れるものを
素直に描くようにしています。

絵本原画展開催

平成26年5月31日(土)～平成26年7月21日(祝)



「あむ」
(小風さち／文 福音館書店)
飼い主のかつちゃんを追いかけてひとり海に向かう大きな黒い犬あむ。ふたりの心のふれあいが温かい絵本



「わにわにのおふろ」
(小風さち／文 福音館書店)
お風呂がだいすきなわにのお話です。きゅるきゅるりと蛇口をひねり、じゃじゃはお湯をためて…

原画展示絵本

夏のギャラリーでは、大人気「わにわに」シリーズから「わにわにのおふろ」
赤ちゃん絵本『でんしゃごっこ』、愛犬とのふれあいを描いた『あむ』の3冊をご紹介します。

山口マオ先生に インタビュー



絵本作家になられたきっかけは？

絵本作家への憧れはありましたが、文章が書けないので無理だと思っていました。たまたま「おきなボケット」(福音館書店)という絵本雑誌の「わにのはなし」に絵を描いてみないかという依頼を受けたのが絵本の世界に関わるきっかけでした。それが「わにわにのおふろ」につながっていきました。

画材は何を使っていますか？

約6〜7割は、木版画で制作しています。残りは、ガッシュまたはアクリルガッシュ、アクリル絵の具で描いています。

今回、絵本原画展を行う絵本の制作秘話や思い出を教えてください。

「わにわにのおふろ」

「わにわに」シリーズ最初の絵本です。最初からシリーズ化の話があったわけではありませんでした。子どもたちの読み聞かせリクエストのリピートと共に人気も高まり、子どもたちに引張られて、大人も段々ファンになってくれたようです。この絵本を作るにあたり、文を書いた小風さちさんと編集者と一緒に、熱川のパナワニ園に取材見学に行きました。リアルなワニを見た印象が最も表れている絵本だと思います。

『でんしゃごっこ』

ぼくが初めて手がけた作・絵の絵本です。0〜2歳児向けの赤ちゃん絵本で、シンブ

ルな短い繰り返しストーリーの中に、色々な心理、不安や優しさ、安心などを込められたらと思って作りました。

『あむ』

こどものとも年長版として「わにわに」シリーズの作者の小風さちさんとのコンビで新たに出した絵本です。ぼくが実際に飼っていたラブラドルレトリバーの黒犬「あむ」が主人公のおかしく、ちょっと切ない絵本です。木版画でなくドローイングで描いています。この絵本を制作中に「あむ」は7歳でこの世を去りました。今年7月に続編「あむとあおいリード」が出版されます。

今まで手がけられた絵本の中で、一番印象深い絵本は？

それぞれの作品に思い入れがあり、一番印象深い絵本を1つ挙げるのは難しいですが、1冊選ぶとしたら、「わにわにのおふろ」です。この絵本は、小風さんとも共通している一番お気に入りの絵本です。シリーズ中、最も自由にのびのびと、のびのびと描くことができました。あやしく面白い絵本になったと思います。

絵本をお作りになるときのこだわりは？

まずは文章……お話の世界を自分のものとなるくらいしっかりと身にしみさせる。その上で、主人公になりきったつもりで描く。あくまでも自分本意になりすぎず、自然に現れるものを素直に描くようにしています。

絵本を通じてお伝えになりたいことは？

伝えたいことは、作品により様々ですが

あえて言えば、「人間であることの面白さ」「この世の面白さ」でしょうか。この地球上の生きものすべてが平和で面白い世界なんだということを表現できたらいいなと思っています。

今後どのような絵本を描いていかれますか？

楽しいこと、悲しいこと、何でも形にしていきたいです。お年寄りに喜んでもらえる絵本にもチャレンジしたいです。

ご趣味についてお聞かせください。

人間観察と散歩と琵琶です。

好きな言葉を教えてください。

「己の王国に主たれ！」です。

ファンの皆さんへメッセージをお願いします。

いつも絵本を楽しんでくれてありがとうございます。ぼくは絵本作家でもあります。絵本にしても絵が、絵描きでもあります。絵本にしても絵に描いたものを皆さんが喜んで楽しんでくれることは、何よりも幸せなことです。これからも死ぬまで続けていきたいと思っています。どうぞよろしくお願いします。それから子どもたちに向けて、好きなことをどんどん夢中になって続けていてね。少々失敗しても諦めず、夢に向かって好きなことを続けることです！

山口マオ先生、ありがとうございました！



『でんしゃごっこ』(福音館書店)
「でんしゃでーすのりませんかあ」
「のりまーすのせてください」
繰り返しのリズムが楽しい動物たちのでんしゃごっこ。

山口マオ先生サイン入りの 絵本を3名様にプレゼント

応募方法 氏名、年令、住所、電話番号をご明記のうえ、
ハガキでご応募ください。
〒939-0283 射水市鳥取50 射水市大島絵本館
あて先 山口マオサイン本プレゼント係
締め切り 平成26年7月10日 消印有効
※発表は発送をもって代えさせていただきます。



『でんしゃごっこ』
(福音館書店)



渡辺 智子
射水市大島絵本館 主任指導員

特集 / 開館20周年 (3)

絵本原画展の世界

絵本館では開館以来、国内外の絵本作家の先生の貴重な原画をお借りして絵本原画展を開催しています。絵本は一度に何千部と印刷され、書店や図書館で手にとりたただけですが、絵本になる前の絵本原画をご覧いただける機会は、なかなかないでしょう。20年間もこのような展示を常時開催できたのは、絵本作家の先生、出版社の皆様のご理解とご協力あつてのことと、改めて感謝の気持ちでいっぱいです。

*

絵本作家の先生は首都圏にお住まいの場合が多く、電話やメールでやりとりをさせていただくことがほとんどです。電話でお話しさせていただくときやいただいたメールの雰囲気やお言葉づかいから、「こんな方なんだろうな」と想像をふくらませます。マグちゃん通信の取材でまたお人柄に触れることができ、その後、展示する絵本原画が届きます。絵本原画展開催までの先生とのやりとりは担当者としての楽しみの一つです。

*

絵本原画を展示し、ギャラリーに立つた時改めて感じるのは、原画の美しさと独特の輝きです。想像であり、創造の世界が改めてみずみずしく体の中にはいってくるような新鮮な感覚を覚えます。そして残され

た鉛筆の下書きのあとや、絵本では気づかなかった細かな筆致からは、描かれた時の息吹を感じます。

「原画で見ると色がもつともつとうかんできて見れば見るほど素敵でした」「見ていると心があつたまってお人柄も素敵な方かと感じました」「色の使い方がとてもきれいでした」「絵が一つ一つ丁寧に描いてあつてびっくりしました」絵本原画展に寄せられた感想の一部です。

*

ある絵本作家の先生のお宅に伺ったときに奥様に言われたことがあります。「自分でお話の世界をイメージし、人に伝える世界を描き上げる。本当にすごい仕事だと思っています」。

もし機会があるならば、ぜひ絵本原画展の会場に足をふみいれて、その世界に触れてみてほしいと思います。ページをめくる絵本の世界とはまた一味ちがう温かで真摯な世界がそこに広がります。

20周年を迎える今、私たちはこれからも多くの皆様のご協力をいただき、絵本原画の世界をご紹介していきたいと思っています。そして来館者の皆様に「絵本館があつてよかったな」と言っていただけよう弛まぬ努力をしていきたいと思っています。

私のおすすめ絵本

『わすれられないおくりもの』

スーザン・バーレイ／作・絵
小川仁央／訳
評論社

大切な人が亡くなったあとに残されたおくりもの。死への一つの答えが繊細な描写で描かれます。



『さるかにがせん』

山下明生／文 高島那生／絵
あかね書房

おなじみの昔話を色鮮やかにダイナミックにユーモアたっぷりに描いた絵本。



『王さまと九人のきょうだい』

中国の民話
君島久子／訳 赤羽末吉／絵
岩波書店

9人の兄弟が特技を生かして困難を乗りきる痛快な中国の昔話。透明感あふれる水彩画も魅力的。



『きつねのかみさま』

あまみきこ／作
酒井駒子／絵
ポプラ社

姉弟ときつねのやりとりが微笑ましいファンタジー絵本。ほのぼのと躍動感あふれる絵が見逃せません。



『ガラスめだまときんのつのやぎ』

ペラルーシ民話
田中かな子／訳
スズキコージ／画
福音館書店

繰り返しが楽しいロシアの昔話。ひもや英字新聞などを用いたコラージュの技法が面白い。



『ぼくがおおきくなったら』

くすのきしげのり／原作
いもとようこ／文・絵
佼成出版社

きつねの親子の会話と温かみあふれる絵が、家族のぬくもりと愛をゆっくり伝えてくれる1冊。

